

2017年度 第1回  
沖縄県がん診療連携協議会

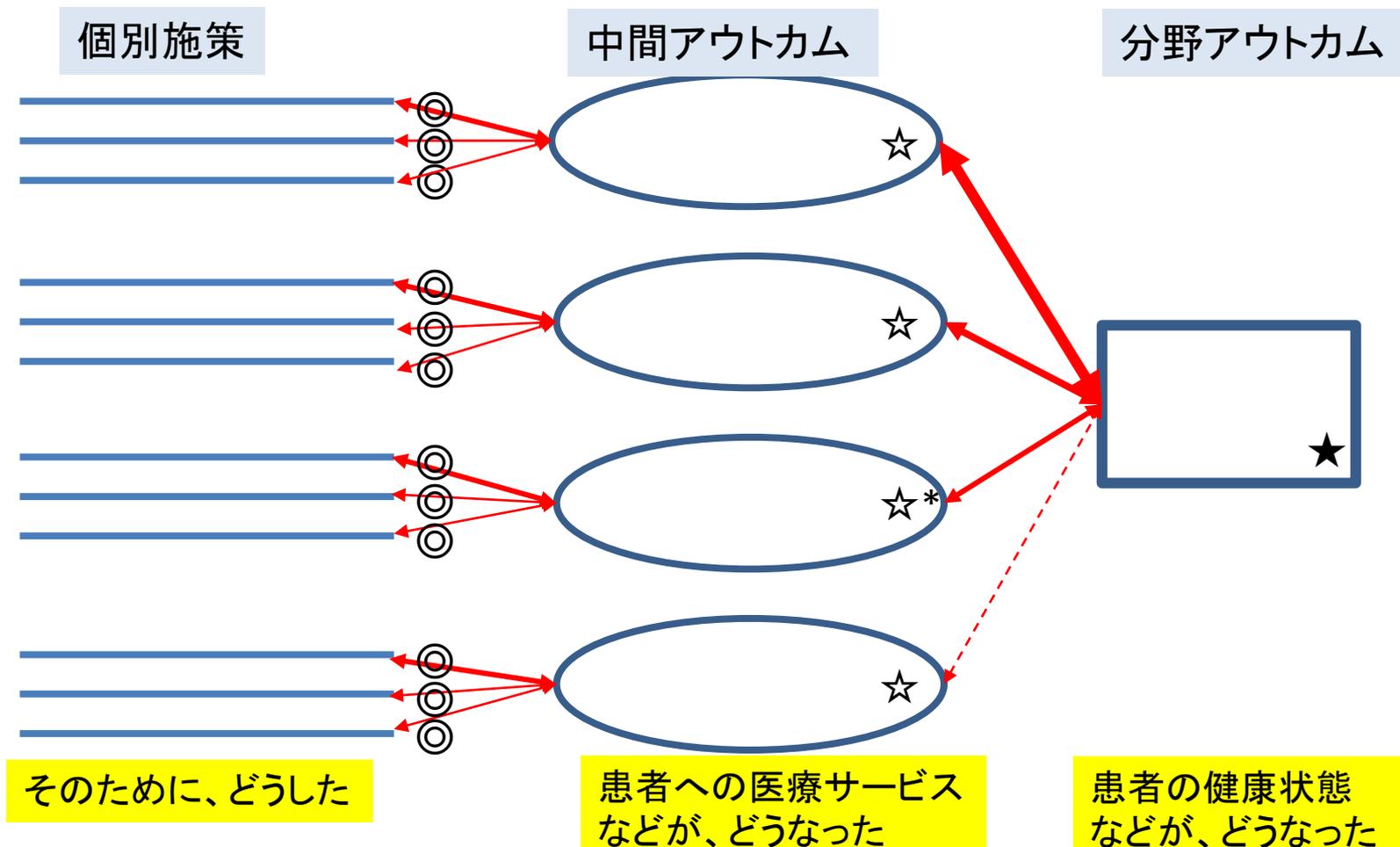
沖縄県の  
次期がん対策推進計画  
に向けた1検討

2017年6月2日  
国際医療福祉大学大学院教授  
埴岡 健一

# 次期計画の姿とロジックモデル

- ・次期計画の本格策定期に入る
- ・連携協議会として、これまでの問題意識を踏まえ、次期計画の構成をイメージすることは重要と考えられる
- ・がん計画の検討に「ロジックモデル」を活用することは有効ではないか（沖縄県「分析報告書」を参照）
- ・県の「仮ロジックモデル」を作ってから、次期計画の作成プロセスを進めてはいかがか
- ・効果：患者、現場に届いているのか疑問だった計画の成果（アウトカム）を生みやすくなる
- ・効果：土俵を作ることで、建設的な議論ができる
- ・背景：アウトカム志向は世の流れ。ロジックモデルは医療計画分野全体でも広がりつつある

# ロジックモデルとは？（効果の関係図）

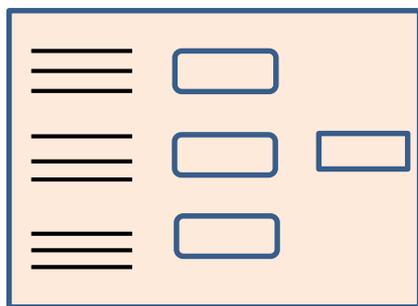


- ・右から左へと見る
  - ・「誰にでもできる！ 第3次がん計画策定ガイドブック」を参照
- 凡例：★、☆=アウトカム指標。◎=アウトプット指標。\*=要開発

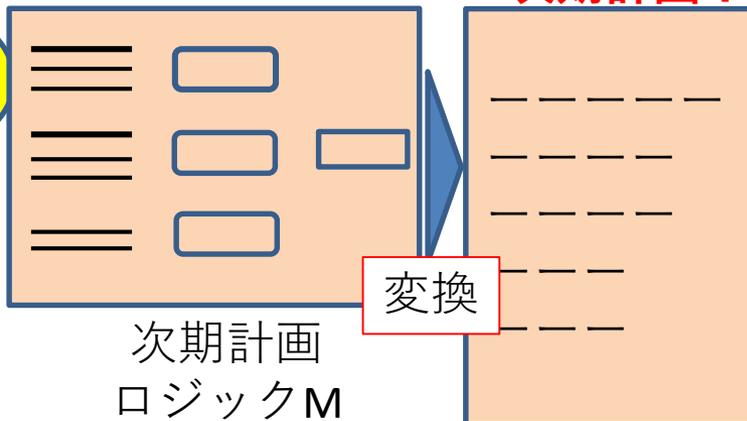
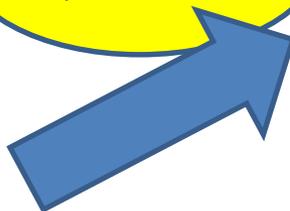
# ロジックモデル活用のイメージ

春 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 秋

議論の枠組み  
良い「仮ロジックM」



地域での熟議  
プロセス



次期計画！

変換

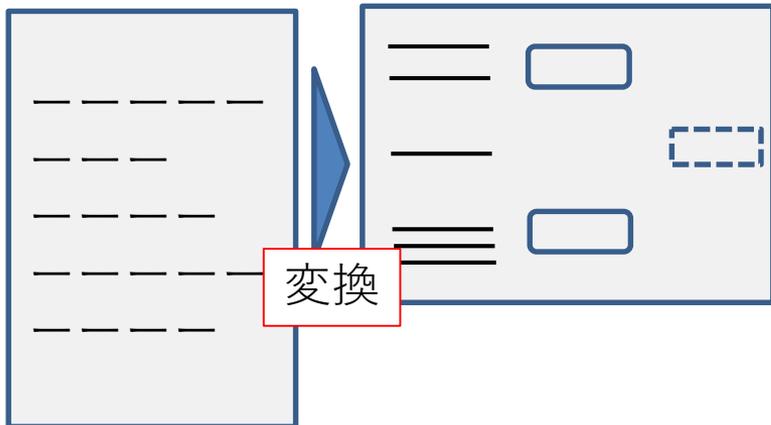
次期計画  
ロジックM

国や他県と比較考察



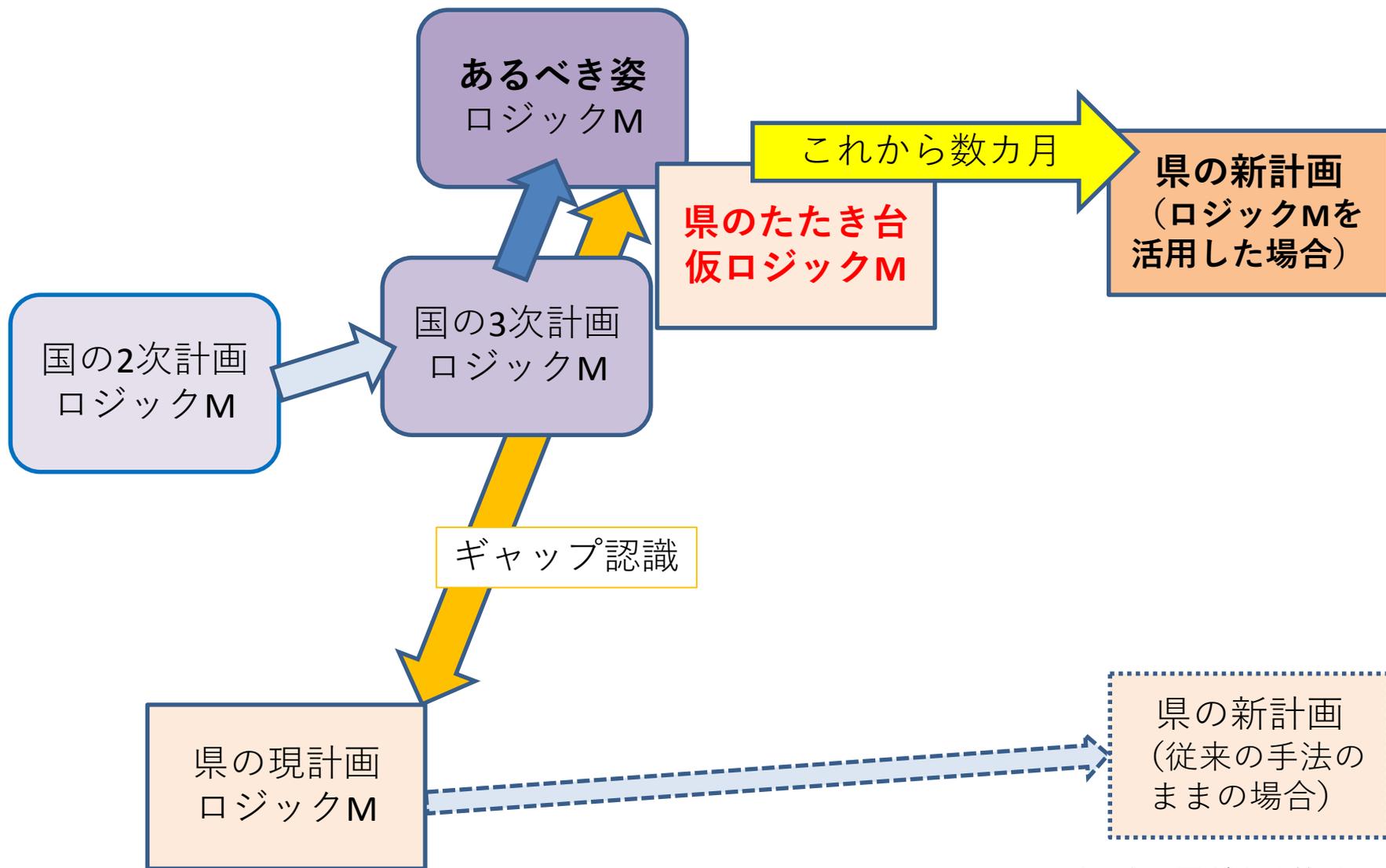
現行計画  
ロジックM

現行計画



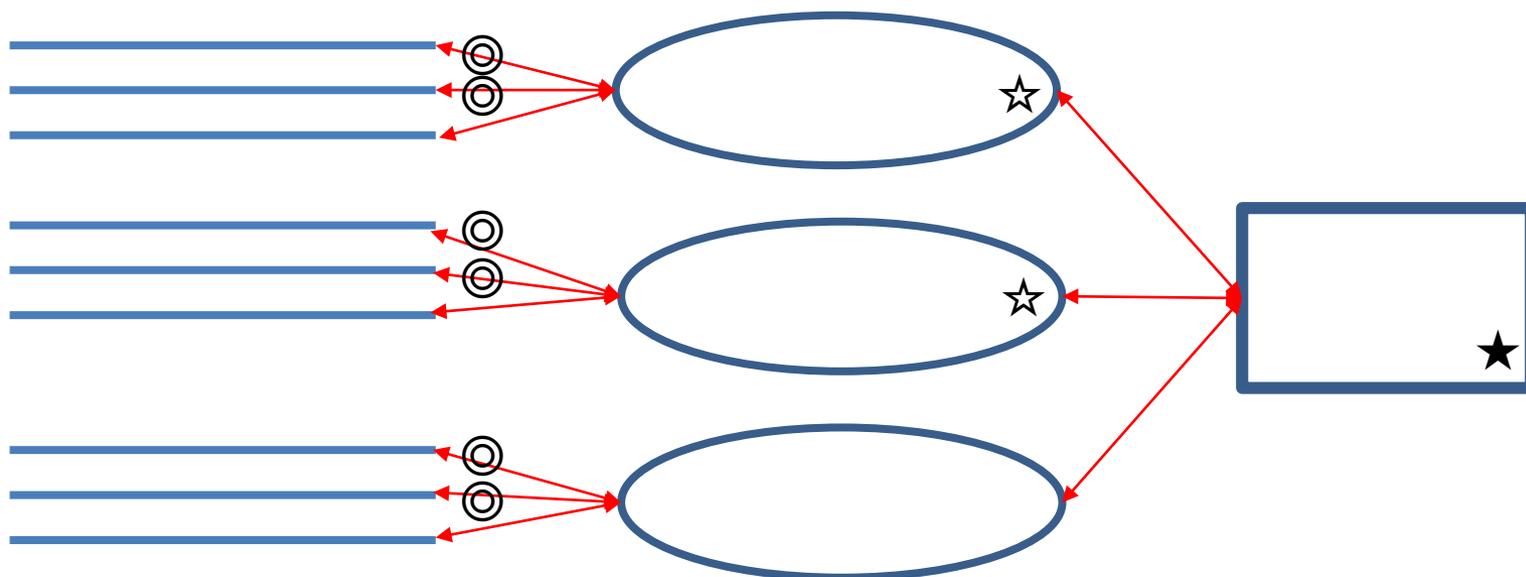
変換

# 仮ロジックモデルを高めておく効果は？



# 国2次計画をロジックモデルに落とす

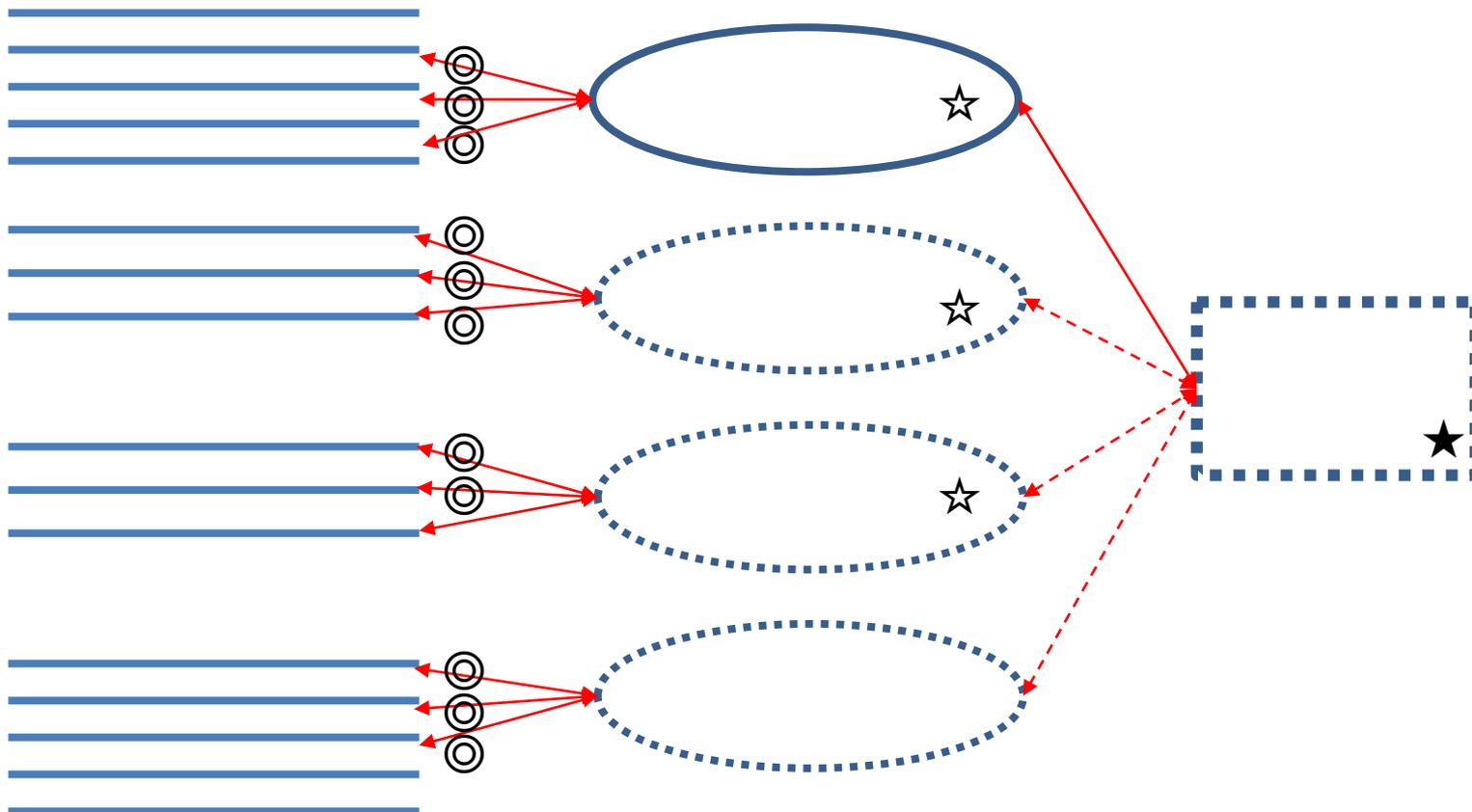
(イメージ図)



- ・計画文をロジックモデルに落とすことは、かなりできる
  - ・分野によって明確度は異なるが、補足することができる
- 凡例：★、☆=アウトカム指標。◎=アウトプット指標

# 国3次計画案をロジックモデルに落とす

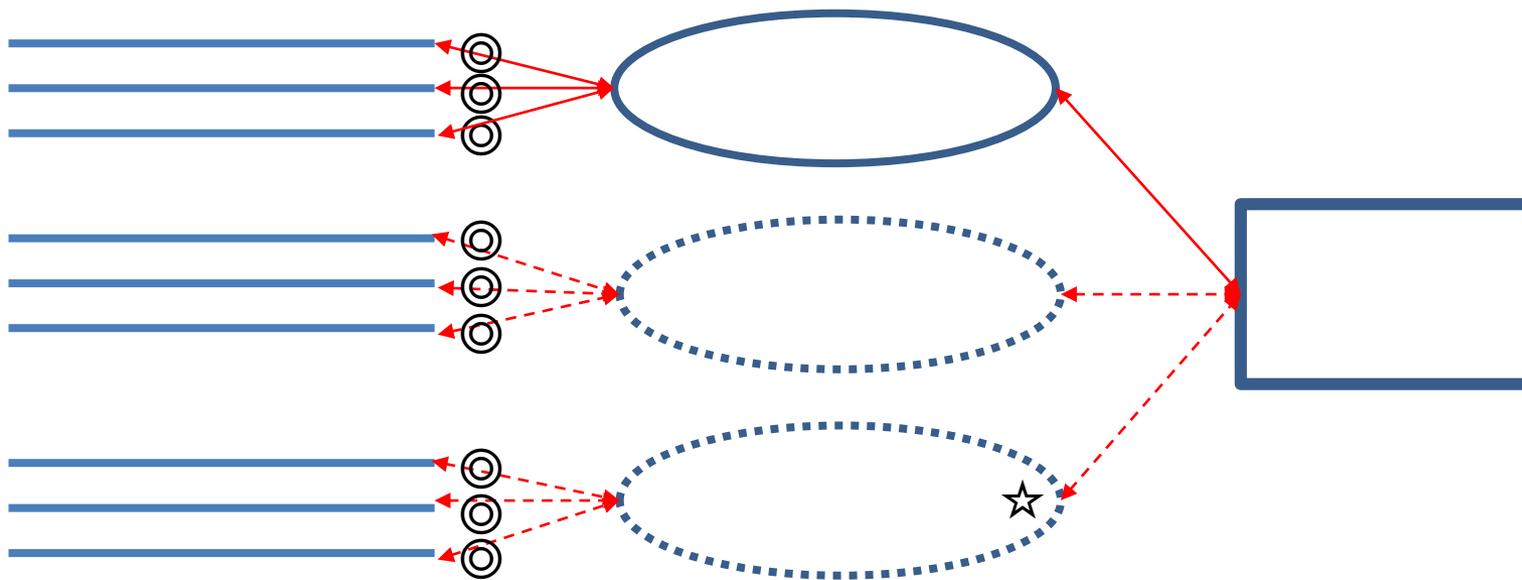
(イメージ図)



- ・アウトカムが明確に書いていない分野もあるが、整理すればロジックM化できる
  - ・指標は、中間評価指標集などからも補える
- 凡例：★、☆=アウトカム指標。◎=アウトプット指標。

# A県の既存計画のロジックモデル化

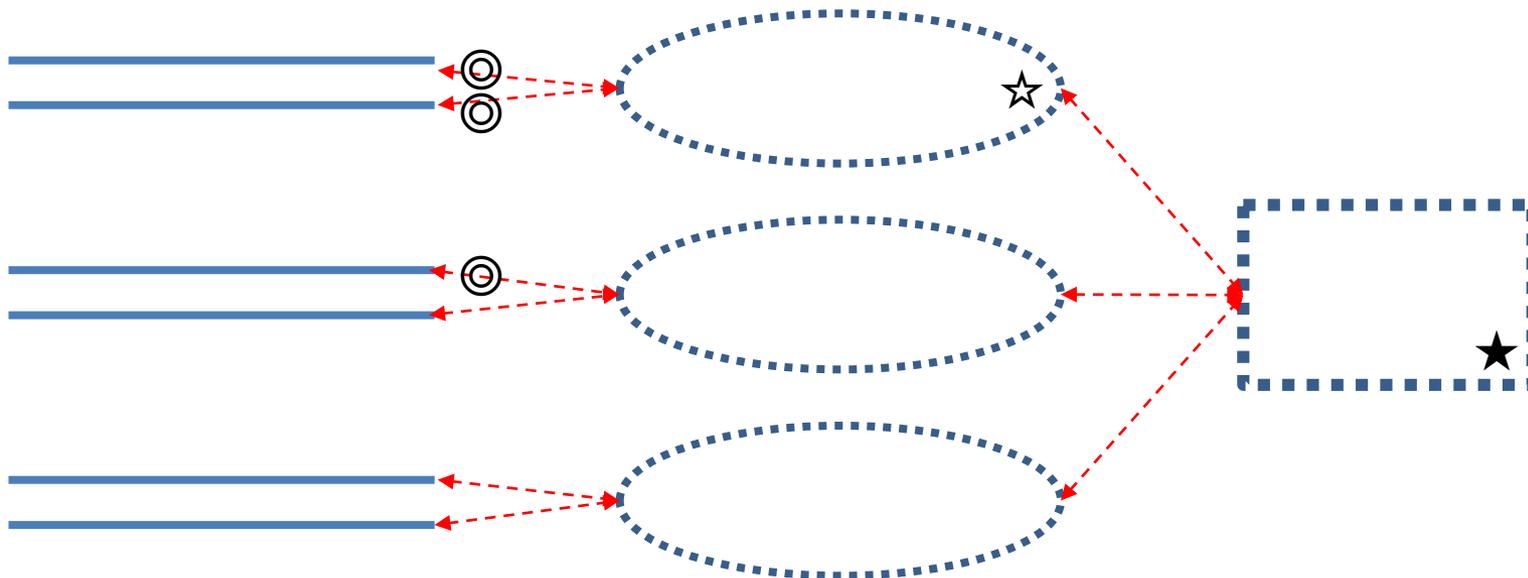
(イメージ図)



- ・県の計画は、概してアウトカム記載が弱い
  - ・アウトカム指標の配置も、概して少ない
- 凡例：★、☆=アウトカム指標。◎=アウトプット指標

# B県の既存計画のロジックモデル化

(イメージ図)



- ・アウトカム記載が、ほぼ皆無の県もある
  - ・施策はあるが、施策が何を指しているか、ほとんど記載されていない場合も
- 凡例：★、☆=アウトカム指標。◎=アウトプット指標

# もし47県既存計画をロジックM化して比較すれば

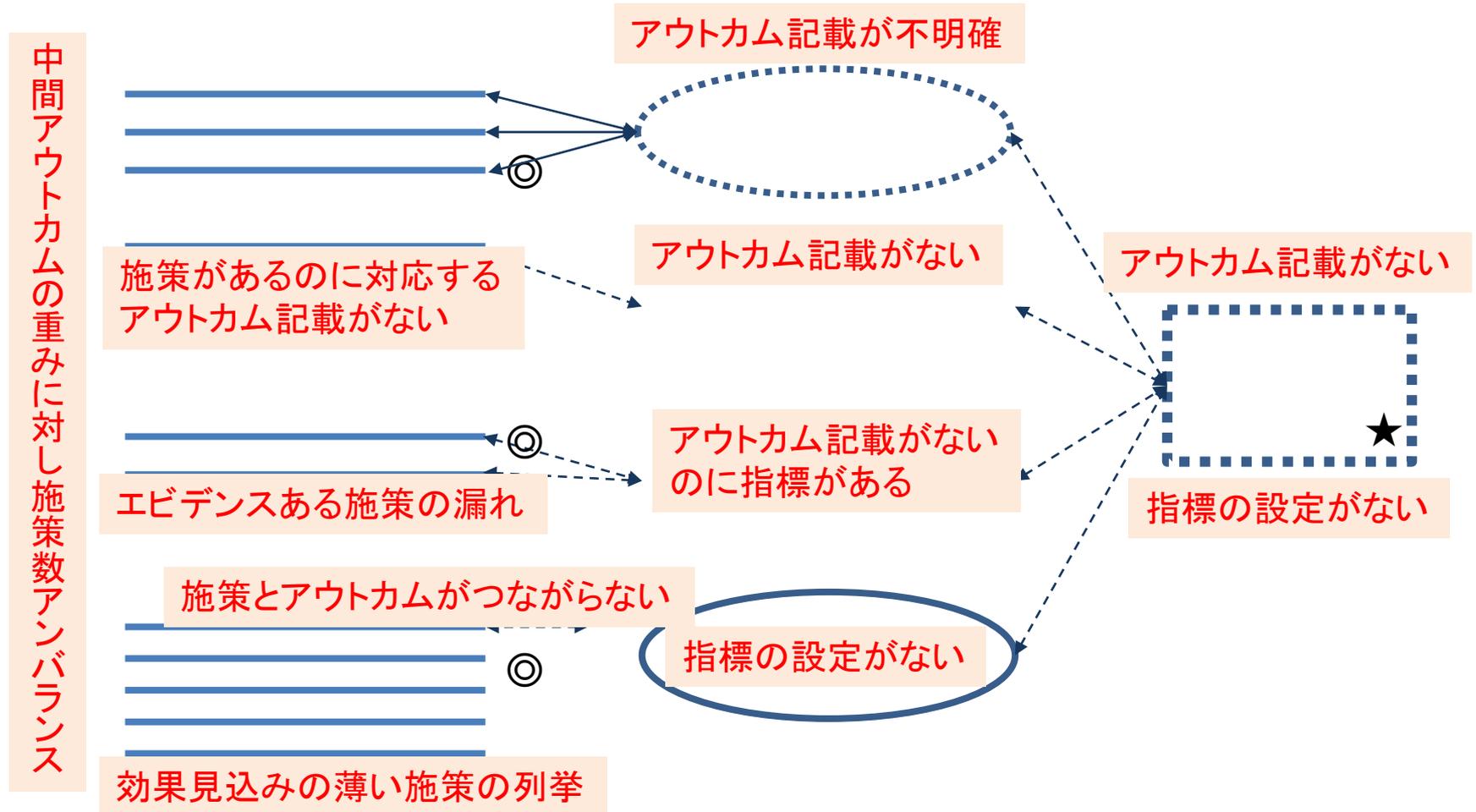
(イメージ表)

分野	個別施策	中間アウトカム	分野アウトカム
国3次計画	16(10)	5(4)	1(2)
A県2次計画	8(1)	4(1)	0(0)
B県2次計画	9(4)	5(0)	0(0)
C県2次計画	9(3)	4(0)	1(1)
D県2次計画	国がやるとしており県の役割が大きいもので、県に記載がないものは、だれがやるのか	明記なくとも中間アウトカムに相当する記載あり。中間アウトカムを明記しよう。中間アウトカムの漏れはないか？指標のうち、県で計測できるものは入れよう	そもそもアウトカム記載がなくていいの？指標を設定できている県もある
E県2次計画			

\* 斜体・イタリック数値は明記されていないところ 10

出典：第14回がん政策サミット資料

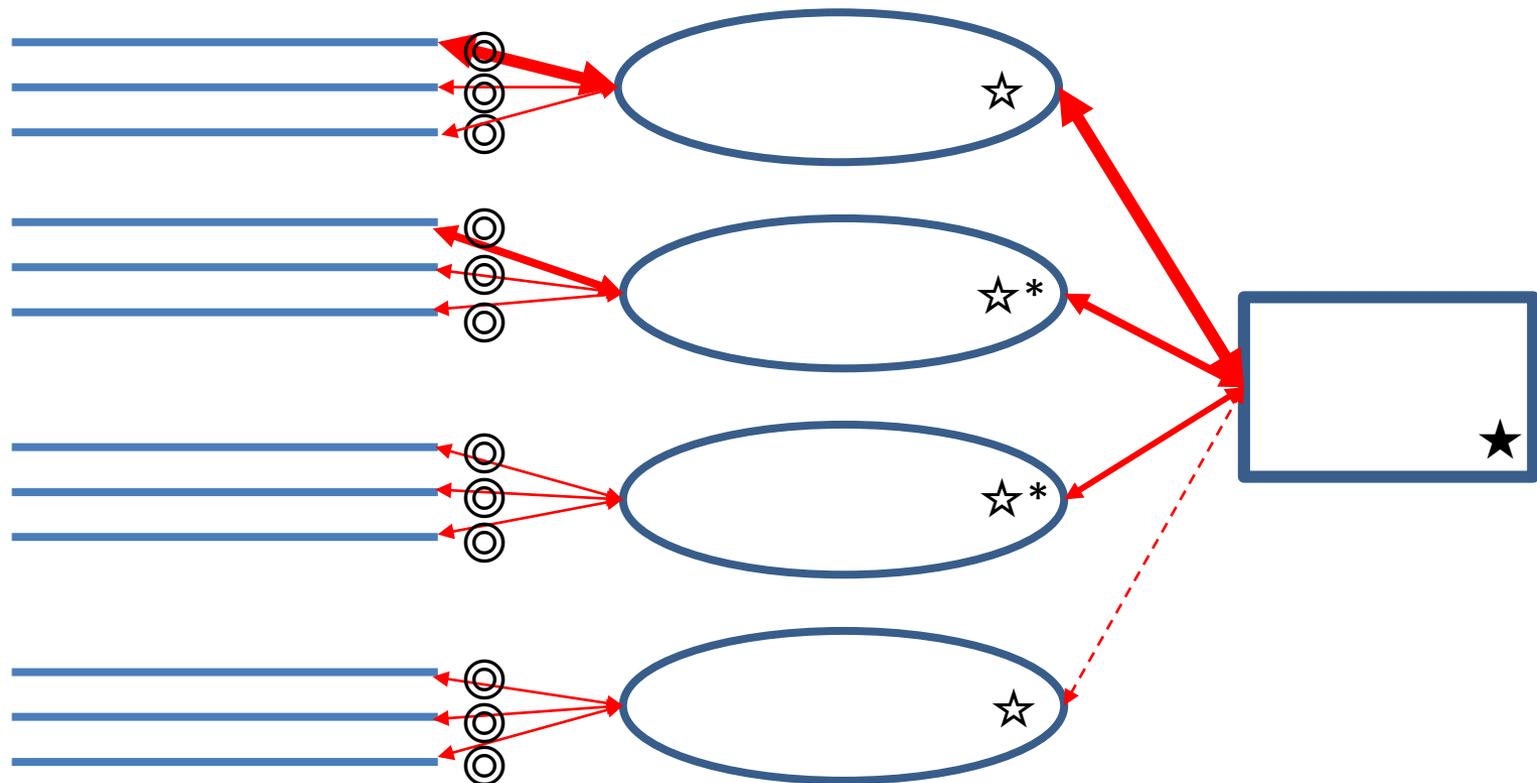
# 比較考察の際の着眼点(起こり得ること)



- ・起こり得ることをチェックしてみる
- ・できている県を参考にする

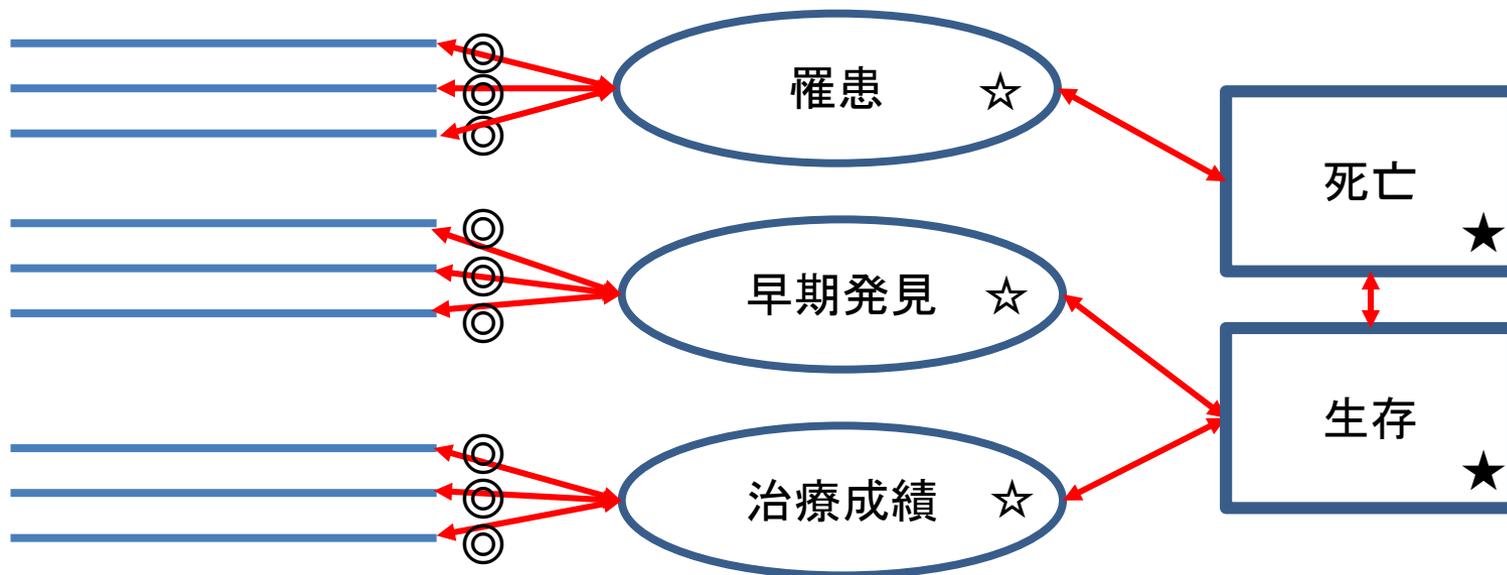
凡例: ★、☆=アウトカム指標。◎=アウトプット指標。\*=要開発

# 補正して県3次計画に向けた仮ロジックモデルを



- ・アウトカムのすべての要素が埋められている
  - ・重点化と優先付があり、どこからどれだけの効果を生むか想定されている
- 凡例：★、☆=アウトカム指標。◎=アウトプット指標。\*=要開発

# 部位別ロジックモデルもお忘れなく

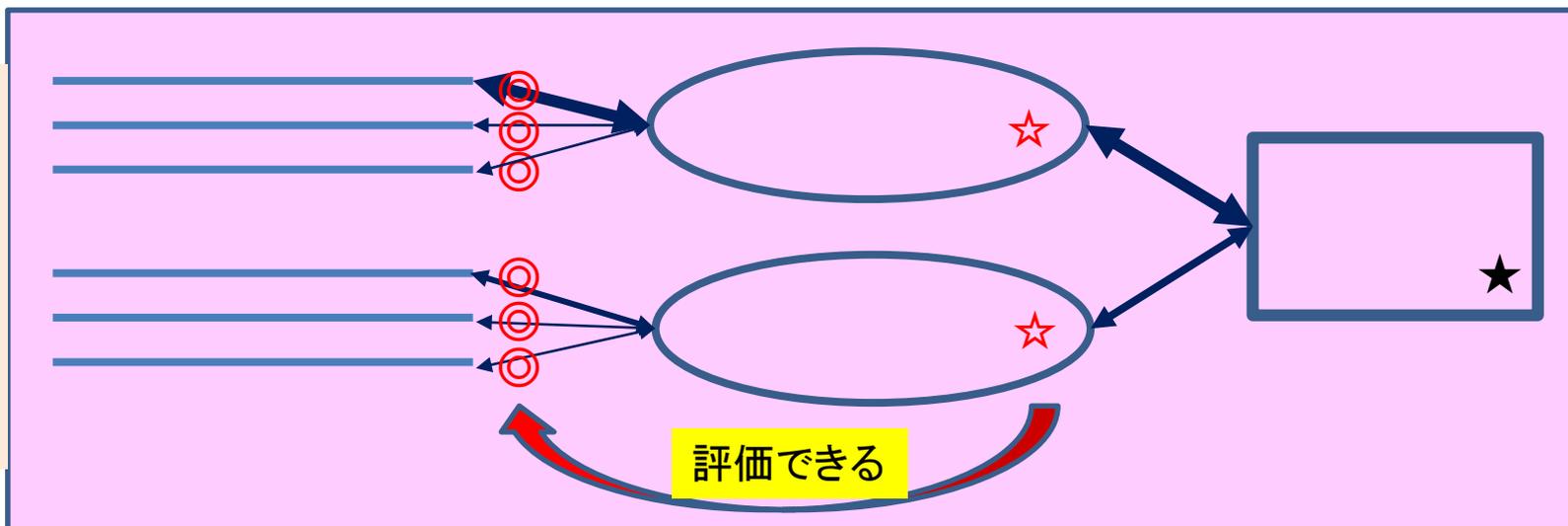


- ・部位別ロジックモデルは、かなり明確
  - ・指標も全体に急速に充実しつつある。地域特性に合わせた分析もしやすい
- 凡例：★、☆=アウトカム指標。◎=アウトプット指標。\*=要開発

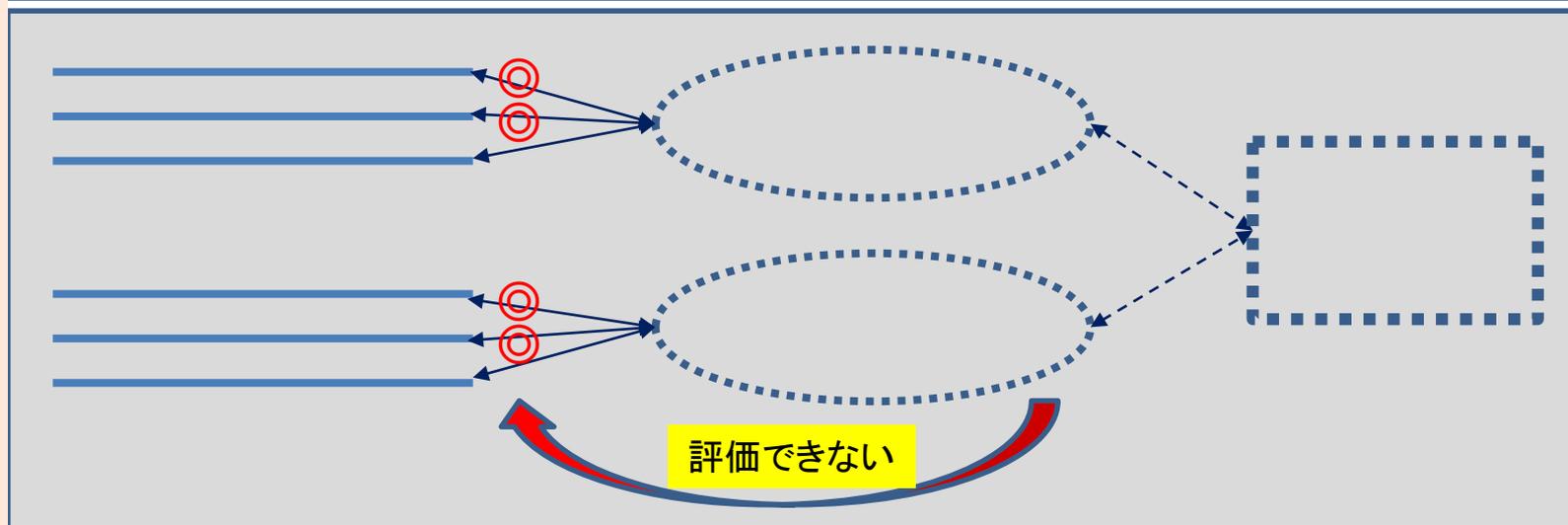
# 3年後、6年後の評価のときを想像...

評価の主軸は、アウトプット指標とアウトカム指標の比較考察から生まれる

ロジックを使った県



ロジックを使わなかった県



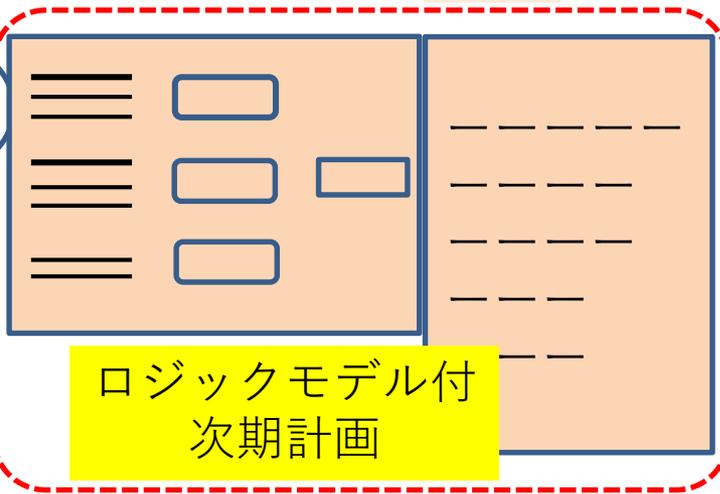
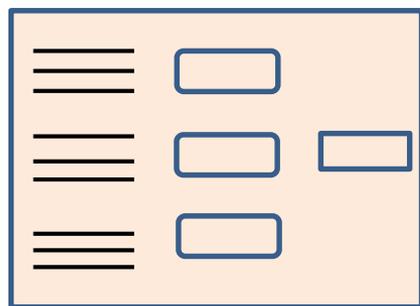
# 各県がロジックモデル付の計画とすれば

春 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 秋

来春

議論の枠組み  
良い「仮ロジックM」

地域での熟議  
プロセス



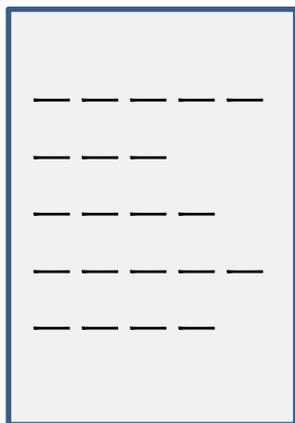
ロジックモデル付  
次期計画

国や他県と比較考察



現行計画  
ロジックM

現行計画



変換



# 全県全分野のロジックモデルがあれば

分野：○○対策

分野：△△対策

分野：●●対策

分野：××事業

【国】

【47沖縄県】

【...県】

【1北海道】

		【国】		【47沖縄県】		【...県】		【1北海道】	
		施策	中間アウトカム	指標	分野アウトカム	指標	分野アウトカム	指標	
1			中間アウトカム①	【××%】	分野アウトカム①	【××%】	中間アウトカム①	【××%】	
2	好事例			【××%】			中間アウトカム②	【××%】	
3	事例			【××%】	分野アウトカム②	【××%】			
4			中間アウトカム②	【××%】					
5				【××%】					
...				【××%】					
		今年	3年前	5年前					

- ・今の計画は県間を比べにくい
- ・47県のロジックモデルがあれば、
- ・比較（ベンチマーキング）ができる
- ・好事例を早く発見し、共有できる
- ・全県の対策が加速する
- ・患者アウトカムの向上をもたらす

施策／初期アウトカム

中間アウトカム

分野アウトカム

1	様々な苦痛のスクリーニングを診断時から行うなど、がん診療に緩和ケアを組み入れた診療体制を整備する。患者とその家族等の心情に対して十分に配慮した、診断結果や病状の適切な伝え方についても検討を行う
①	① 緩和ケア研修体制が見直されている
②	② 緩和ケアの知識と技術の習得
③	③ 緩和ケア提供体制の整備
④	④ 緩和ケアを迅速に提供できる体制が整備されている
⑤	⑤ 専門的な緩和ケアの提供体制の整備と質の向上がなされている
⑥	⑥ 緩和ケアを迅速に提供できる体制が整備されている
⑦	⑦ 専門的な緩和ケアの提供体制の整備と質の向上がなされている
⑧	⑧ 緩和ケアを迅速に提供できる体制が整備されている
⑨	⑨ 緩和ケアを迅速に提供できる体制が整備されている

1	1 研修体制見直し
①	① 緩和ケア研修体制が見直されている
2	2 緩和ケアの知識と技術の習得
①	① がん診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得している。
②	② 特に拠点病院では全ての医師が緩和ケア研修を修了している
3	3 緩和ケア提供体制の整備
①	① 緩和ケアを迅速に提供できる体制が整備されている
②	② 専門的な緩和ケアの提供体制の整備と質の向上がなされている

1	1 患者とその家族などががんと診断された時から身体的・精神心理的・社会的苦痛などに対して適切に緩和ケアを受け、こうした苦痛が緩和されている
---	---

国2次計画  
緩和ケア分野  
ロジックモデル化  
（試行的作業）

施策／初期アウトカム

中間アウトカム

分野アウトカム

1 沖縄県

- ① (拠点病院等と連携し)緩和ケアに関する知識及び技術を有する医療従事者の育成を図り(略)、緩和ケアの提供体制を推進する
- ② 住み慣れた家庭、地域等で緩和ケアを受けることができる体制を推進する
- ③ 緩和ケアに関する普及啓発を推進する
- ④ 緩和ケア指導者研修会及び精神腫瘍学指導者研修等の受講を推進する
- ⑤ 緩和ケア研修会及びフォローアップ研修会の開催を推進する
- ⑥ 緩和ケアチームの設置および緩和ケア外来の開設を推進する
- ⑦ 緩和ケアに関する普及啓発を推進するに関する専門家を集めての合同カンファレンス等の開催を促進する

- 1 がん患者と家族ががんと診断された時から質の高い緩和医療を受けることができる

- 1 安心して療養生活を維持することができる

2 市町村

- ① 地域住民への緩和ケアに関する普及啓発に努める

3 保健医療関係者

- ① 沖縄県緩和ケア研修会の受講に努める
- ② 沖縄県緩和ケア研修会の開催に努める
- ③ がん診療に携わる医療機関は多職種協働による緩和ケアチームの設置に努める
- ④ 緩和ケアチームの設置および緩和ケア外来の開設を務める
- ⑤ 合同カンファレンス等の開催に努める

沖縄県2次計画  
緩和ケア分野  
ロジックモデル化  
(試行的作業)

施策／初期アウトカム

中間アウトカム

分野アウトカム

1

① ビジョン策定と評価体制の構築

1 中期ビジョンの策定と実施

1 苦痛の軽減と療養生活の満足

2

- ① 痛みのスクリーニングの実施
- ② 病病連携による緩和ケア医療の提供
- ③ 緩和ケアに関わる医療従事者の育成
- ④ 緩和ケアの普及啓発

2 診断時からの質の高い緩和ケア

沖縄県  
分析報告書  
緩和ケア分野  
ロジックモデル

施策／初期アウトカム

中間アウトカム

分野アウトカム

1 がんと診断された時からの緩和ケアの推進

- ① 苦痛のスクリーニングを行い、苦痛を定期的に確認し、迅速に対処する等、がん診療に緩和ケアを組み入れる
- ② 患者とその家族が痛みやつらさを訴えやすくするための環境を整える
- ③ 緩和ケアチーム等の症状緩和の専門家に迅速につなぐ過程を明確にする。患者と家族に相談支援を案内すること、医療従事者から積極的な働きかけを行うこと等の実効性のある体制を整備する
- ④ 「緩和ケアセンター」の機能をより一層強化する。「緩和ケアセンター」のない拠点病院等は、既存の管理部門を活用して整備する。緩和ケアの質の評価体制の導入を検討する
- ⑤ (各専門職)の適正配置や緩和ケアチームの育成のあり方を検討する
- ⑥ 緩和ケアの質を評価する指標や基準を確立する。実地調査や遺族調査等を定期的かつ継続的に実施し、質の向上策の立案に努める
- ⑦ 拠点病院以外の病院における緩和ケアの実態や患者のニーズについて、実地調査等を通じて把握する
- ⑧ 緩和ケア病棟の機能分化等のあり方について検討する

1 がんと診断された時から緩和ケアが推進されている

1 患者とその家族の状況に応じて、療養場所を問わず、がんと診断された時から身体的・精神心理的・社会苦痛等に対する適切な緩和ケアを、がん治療に伴う副作用・合併症；後遺症に対する支持療養と併せて提供し、こうした苦痛が迅速かつ十分に緩和できる体制が整備できている

2 緩和ケア研修について

- ① 拠点病院以外の病院等を対象として、積極的な受講勧奨を行う。看護師、薬剤師等の医療従事者が受講可能となるような内容、体制を検討する
- ② 地域の実状に応じて研修内容や実施方法を充実させる。研修の評価指標については、患者が専門的な緩和ケアを利用できた割合等について、到達目標を明確にする
- ③ 座学部分はe-learningを導入し、研修形式について見直しを行う。グリーフケアの提供に必要な研修プログラムを追加する
- ④ 卒後2年目までに全ての医師が、緩和ケア研修会を受講するよう、整備指針等を見直しを行う

2 緩和ケア研修を実施できる体制が構築されている

国3次計画素案  
緩和ケア分野  
ロジックモデル化  
(試行的作業)

沖縄県次期計画  
仮ロジックモデルを作成し  
計画内容の議論を始めよう

ありがとうございました